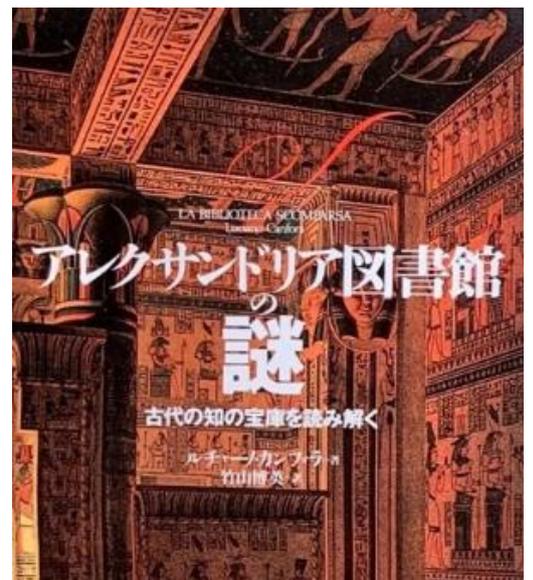


今さら聞けない AI(13) ③データの大規模消失

ものづくりや事務作業を効率化し、ちょっとした疑問にもそれなりに回答、日常生活を便利にしてくれるAIですが、メリットが大きければ、弊害も大きく、前々回はAI依存症を、前回は電力消費の急増を採り上げました。今回は、AIへの依存に伴って深刻化するデータの大規模消失の問題を採り上げます。

インターネットはまさに歴史が詰まった巨大な図書館であり、過去の世界中の文化遺産のアーカイブとともに、現在進行中のあらゆる会話、写真、記事などが記録されていきます。実際、多くの人々がクラウドに貴重な写真を保存しているし、Facebook やX、YouTube などSNSには多くの記事や動画が記録されています。

しかし、デジタルデータが保存されているハードディスクやサーバーなどの記録媒体には物理的に寿命があります。また、古いフォーマットに依存したデータは、将来、読み取れなくなります。ウェブサイトの提供者が倒産・撤退すると、保守されていたコンテンツも消えかねません。クラウドに保存されていても、バックアップや多重冗長化が不十分だと消失リスクが高くなります。今後のインターネットの劣化が将来に問題を引き起こし、「デジタルの終末」が近づいてきていると警鐘を鳴らす専門家もいます。



紀元前48年にアレクサンドリア図書館が消失し、古代世界の多くの知識が消失しましたが、「デジタルの終末」が来れば、古代と同様に現代世界の知識が消失し、歴史的損失は膨大です。災害時、建物は再建が可能ですが、データというものは、命と同様、一旦失われると、復元が不可能なのです。それを防ぐ方策としては、データセンターの二重化と共に、逆説的ですが、ハードコピー、つまり、紙媒体による記録も最悪を防ぐ手助けになります。

(竹の台 西元)